

## 平成29年度第2回国立岩手山青少年交流の家施設業務運営委員会議事要旨

日時 平成30年2月9日(金) 13:00～14:30  
場所 国立岩手山青少年交流の家 第1研修室

### 出席者 〈施設業務運営委員〉

浅沼道成	岩手大学 人文社会科学部 教授
岩渕健一	岩手県立盛岡農業高等学校 校長
大石泰夫	盛岡大学 文学部 教授
佐々木由紀子	滝沢市立一本木小学校 校長
岩渕忠徳〈代理〉	岩手県教育委員会 生涯学習文化財課 社会教育主事
佐藤潔〈代理〉	秋田県教育庁 生涯学習課 副主幹
主濱恵悦	滝沢市子ども会育成連合会 会長
武田敏哉	(株)IBC岩手放送 取締役 放送本部長兼編成局長
中野美知子	一般社団法人盛岡市青年会議所 理事長
成瀬啓啓〈代理〉	宮城県教育庁 生涯学習課 課長補佐
横澤繁之	岩手県レクリエーション協会 理事長
渡部靖之	青森県教育庁 生涯学習課長

欠席者 菊池啓子 岩手県立陸中海岸青少年の家 所長  
熊谷雅英 滝沢市教育委員会 教育長  
高橋繁雄 一般社団法人岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会 理事  
田村忠 盛岡市立大宮中学校 ※岩手県中学校長会 常任理事  
岩手県PTA連合会 副会長  
吉田幸司 八戸市教育委員会 教育部長

### 〈職員〉

松田所長、佐々木次長、東主幹兼総務係長兼管理係長、鎌田主任企画指導専門職、佐々木副主任企画指導専門職、工藤企画指導専門職、上村企画指導専門職、中村企画指導専門職、田口事業推進係長、小綿管理係主任、藤根事業推進係主任、椎名総務係員

### 〈法人ボランティア〉

田中 照美

### 1 挨拶 (所長)

### 2 日程・資料の確認 (次長)

### 3 施設業務運営委員及び職員の紹介

### 4 委員長・副委員長の確認

事務局から、議事進行を委員長に引き継いだ。

### 5 「新しい公共」の管理運営について

松田所長から、資料に基づき、当機構の第3期中期目標・中期計画において、地域と一体となった効率的・効果的な管理運営を目指すため、全施設に「運営協議会」方式を導入することが定められており、当交流の家では施設業務運営委員会の下に部会を設置し、地域の多様な主体からの意見を入れ、地域と一体となった施設の管理運営・機能強化を目指したい旨が述べられた。

次いで、佐々木次長から、施設業務運営委員会規程を改正の上、本委員会の下に3つの部会を設置し、外部有識者が参画できる機動的な形態とすることで新しい公共型の管理運営を行っていききたいこと、また、各部会の部会長については本委員会委員を当てることとし、候補者からは内諾を得ている旨、説明があった。

審議の結果、「国立岩手山青少年交流の家施設業務運営委員会規定」を改正の上、「国立岩手山青少年交流の家施設業務運営委員会部会設置要綱」を制定し、新しい公共型の管理運営の体制を整備し、実施していくことが了承された。

## 6 国立岩手山青少年交流の家の運営状況説明等

### ①平成29年度の運営状況説明

- 1) 「タートルズキャンプ」及び「テンちゃん一家の一週間」事業の成果等について、企画指導専門職から説明を行った。
- 2) 法人ボランティアの登録者数・活動状況について、企画指導専門職から説明を行った。
- 3) 昨年度及び今年度1月までの利用者数・満足度などについて、事業推進係長から説明を行った。今年度の利用者数について宿泊者数の目標値は下回る可能性があるが、日帰り及び宿泊者数の合計値については、当初の目標値を上回る見込みとなっている旨説明を行った。
- 4) 社会教育功労者表彰、当施設組織図について、主幹から説明を行った。次いで、平成29年度予算配分及び施設整備について管理係主任より説明を行った。

### ②平成30年度の運営状況・計画等説明

- 1) 平成30年度の事業方針の概要について、所長から説明を行った。
- 2) 平成30年度事業等計画について、企画指導専門職から説明を行った。
- 3) 平成30年度の利用申し込み状況等について、事業推進係長から説明を行った。

### ③協議

#### 意見・質疑応答

**委員長：**平成30年度の事業計画の総数が29年度より減少しているが、減少しているプログラム等について詳細を説明してほしい。

**主任企画指導専門職：**削除したプログラムは「さんりく！体験！発見隊」「日独学生青年リーダー交流」「えいご de キャンプ」「親子宿泊体験 in テンパーク」となっており、機構からの委託が終了するものや、みちのく体験の風をおこそう推進運動で実施することになるプログラムが含まれている。総数としては減少しているように見えるが、みちのく体験の風をおこそう運動で新たなプログラムも検討しているため、昨年度と同等程度のプログラム数となる予定である。

**委員：**テンちゃん一家の一週間の対象とする小学校が、昨年度と全く同じである理由を説明してほしい。また、テンパークまつりでの集客をより強く意識し、利用者増につなげる必要があると考える。

**所長：**当初は、毎年対象校を変えていた時期があったが、事業後の成果・効果を感じる事が難しかったこともあり、子供たちの事業後の成長を確認し、中学校への進学（中一ギャップ解消）への効果を定期的に測定するために、対象を滝沢第二・東小学校の二校で実施している。対象校については滝沢市教育委員会等と相談しながら種々勘案し、必要に応じて変更を検討する必要があると思っている。

テンパークまつりについても、地域の子供たち、団体に訪れてもらうことに加え、通常期にも幼児団体やサークル団体が訪れる等、地域の中核施設となるべく、引き続き周知等に努めていきたい。

**委員：**宿泊者全体における学校の割合とはどの程度なのか。

**所長：**昨年度の全宿泊団体数における「学校」の利用割合は22.3%となっており、一番多い団体としては「青少年団体」の29.4%となっている。

しかし利用者数としては、一番多い団体が「学校」の35.7%、「青少年団体」は24.4%となっている。ただ、学校など大規模な団体では、バス代等経済的な圧迫が増えていることに加え、大学では学年暦、小・中・高校では宿泊事業の見直し等があり、施設の利用減少に対して懸念している。

**委員：**ボランティア人数の93名という数字が、非常に多く驚いている。この数字について、ここ数年ではどの程度なのか、また、構成員の内訳を教えてください。

**所長：**人数については例年100名程度で推移しており、多くは盛岡大学、岩手大学、岩手県立大学より構成される大学生が中心となっている。なお、少人数ではあるが高校生も所属している。

**委員：**時期学習指導要領に伴う学校等での体験活動の展開として、教科等と関連付けた体験活動プログラムを鋭意作成するとあるが、具体的にどの程度作成を進めているのか。

**所長：**現在は機構を中心にして、各施設で実施している地域の特性を生かした体験プログラムを集約している段階である。当施設でもこれまで学校と連携できるプログラムがあるが、時期学習指導要領が改訂されるにあたっては、さらに指導要領に沿った形のプログラムを提示できるよう検討していきたいと思っている。

審議の結果、本会議において説明された平成30年度の計画等について、委員の意見を取り入れた上で、交流の家に一任して実施していきたい旨が委員長から提案され、承認された。

以上